

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793020017		
法人名	医療法人 誠励会		
事業所名	誠励会グループホーム芝桜 秋桜ユニット		
所在地	福島県石川郡平田村大字上蓬田字清水内15番地		
自己評価作成日	平成28年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成28年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人内に病院、施設、など様々なサービスなどがあり特に体調不良時の受診は迅速な対応が出来、入所者と家族が安心して過ごせる環境にあります。村内の慣れ親しんだ方々に合う機会も多く、学校、商店、ご近所の住民などの社会資源が豊富にあります。法人内には車両課もあり車を使用したお出かけの機会も多く、夏井の千本桜見学、ジュビアランド平田見学、毎月のお買い物等入所者の楽しみとなっております。今年度は村の文化祭に訪問し素晴らしい作品を見て来年度出展できるよう刺激を受け今後の作品づくりに向けて動いているところです。今年度も沢山の学生が職場体験に来られ入所者との触れ合いの機会に恵まれました。職員の研修や勉強会にも多く参加できスキルアップと実践に活かしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は地域密着型サービスの意義を理解し、ケアに対する意識が高く、常に利用者寄り添い思いの意向をくみ取り、その人らしく過ごせるよう取り組んでいる。法人内には多様な事業所があり、利用者や地域の人の交流の場になっている。職員が積極的に資格取得に取り組むことに、勤務体制の調整など協力し、資質の向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はグループホーム開設時に職員間で話し合い作られたもので玄関とスタッフルームに掲示し朝の申し送り時に復唱しています。復唱することで初心を忘れることなく毎日のケアにつなげています。	職員は理念を理解し、自然な雰囲気で言葉かけや支援をしている。地域の利用者を、地域に住んでいる職員が支えていて利用者は穏やかに過ごしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には施設の周辺をお散歩したり、毎月の行事でお買い物に出掛けた際には地域の方々とふれあい挨拶や会話されています。行事の際には託児所の子供達の慰問やお花見でのお出かけなど地域の方々との交流ができています。	村の文化祭に参加でき、今後は、作品を制作して展示参加をしたいと意欲を高めている。託児所の子供達との交流を楽しみにしている。他の事業所利用の帰りに訪問していく地域の人もおおい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元周辺の学生が職場見学や体験に来る機会が増えグループホームと認知症について説明しています。また面会に来られた家族やご友人にも認知症についての対応の仕方を助言、アドバイスし労いの言葉かけをすることで理解を深めていただいています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族や地域の方々には活動の報告や今後の予定をお伝えし参加を促す機会となっています。また意見交換をすることでより良いケアになるようサービスの向上に活かしています。	参加した家族や地域の人から文化祭の開催日程や地域の情報等を教えてもらい、行事の設定につないだり、利用者支援や理解にいかしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査などで来所された際にグループホームの現状や困りごとを相談したり、何かあれば電話にて確認するなど連絡の取りやすい関係を築いています。実際に今年度ホームに空きがある事を伝えたことで入所となった方がおります。	行政との連絡は、法人の専門の職員が担って連携を図るようにしている。利用者の状態の変化や空室等の情報は、速やかに連絡している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何かを職員全員が共通の認識となるように、併設の病院の身体拘束廃止委員会への勉強会に参加して理解を深めています。夜間居室内にて転倒の危険のある入所者にはベットに鈴をつける、センサーマットを利用する、巡視の回数を増やすなど工夫しています。また玄関先にはセンサーを付けることで危険防止に努めています	職員の研修体制や、参加しなかった職員への報告機会が、整えられている。職員の理解が深められていて、這って移動する利用者には、床に布団をしいたりしている。法人の他の職員や地域の人等にも、見守られて過ごしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は9/14に行われた高齢者施設における虐待防止研修会に職員が参加しました。後日施設内で研修報告会を行い職員全員が高齢者施設における虐待防止について学ぶことができました。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護に関する制度について勉強する機会があり、必要と思われる時には法人内に相談出来る体制が整っておりスムーズな活用につなげることが出来ます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には家族に十分な説明を行い納得されたうえで行われております。疑問、質問があればいつでも連絡いただけるよう伝え都度対応しております。契約の改定があれば文書にて通知を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には入所者の状況を伝え家族の意見や要望を聞いて職員間で話し合いより良い支援が出来るよう努めています。また、家族が来訪した際には話し易いような環境を作り笑顔で対応しています。	日頃から利用者の生活状況を知らせ、意見や要望を聞くようにしている。家族の方は、これまでの生活状況が分っているので、身体状況が変化したときも相談しやすく利用者に適切な対応ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は意見や提案を言いやすく、上がった意見は朝の申し送り時、ミーティングや個別面談で話し合い解決に繋げるなどよりよい職場づくりに反映させています。	管理者と職員は日ごろからコミュニケーションが図れ信頼関係ができています。職員から資格取得との要望があり、日程の調整など協力し、質の向上につなげている。寒い時期なので、湯たんぽの使用してはとの提案があり実施するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務には希望の勤務時間や休みを取り入れ働きやすい環境作りを努めています。超過勤務や連続勤務とならない様労働時間を守り、仕事への意欲に繋げています。資格取得後の昇給制度や昇格制度があることで職員一人一人のスキルアップに繋がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会の他に今年度は認知症介護実践者研修を受講いたしました。その他に研修に参加した際には報告会を行い施設の職員に研修内容を報告し、全職員が研修内容について勉強することができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム協議会に入会しており研修の機会に恵まれ今年度もいくつかの研修会に参加しました。参加した職員は同業者と交流ができ、意見交換したり、ネットワーク作り、サービスの質の向上に繋がられ、施設でも実践で活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族からの情報や以前にサービス利用があればその情報を申し送りノート等にて職員が確認できるように努めています。特に生い立ちから現在までの生活歴を知ることによって本人との会話や対応に役立っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族等が困っていること、不安なこと、要望を聞く機会を設け安心して入所できるよう努めています。家族の抱える問題点を職員が周知し個人情報に配慮しながら対応し信頼関係を築けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から聞いた情報や入所後の様子を見極め「その時」本人に何が必要なのか、どのようなサービスがよいのか職員同士で話し合い対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者の出来ることは無理のない程度に行っていくことで共に支えあい生活している関係を築いています。日常生活で行う食事の後片付けや洗濯物量みなど出来ないではなくどうやったらできるのか、どこまでならできるのかを職員と共に考え一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪された際に本人の状況をお伝えし問題があれば意見を出しあっています。家族の協力が無いと解決できない場合は家族と共に支えていくよう話し合うことで解決し関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「芝桜便り」で気軽に立ち寄っていただけるよう呼びかけしています。法人内のクリニックやデイサービスには顔見知りの方も多くお散歩や受診時に挨拶や会話を楽しまれています。また必要なものがあれば連絡し家族に持参して頂くことで定期的な面会が保たれています。	家族・友人・親戚の方が訪問してくれ楽しい時間を過ごしている。家族と法事に出かけ懐かしい人と時間を過ごしている。定期的に美容師に訪問してもらい、馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で入所者の個性と関係性を把握しています。会話に入れない入所者には職員が間に入り皆で会話ができるように配慮しています。家事をお願いする時は入所者同士が協力して行えるよう段取りを職員が行いトラブルにならないよう見守り、配慮に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の病院に入院となった際には面会にいき声をかけ関係を継続しています。退所の際にはグループホームで過ごされた思い出のアルバムを作成しお渡しし家族に大変喜ばれております。家族と近隣でお会いした際には声掛けし関係を継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中や会話で本人の希望や意向を把握して出来る限り希望に沿い暮らせるよう支援しています。困難な場合でも本人の立場になり必要と思われる支援を提供できるよう職員間で話し合い検討して実行しています。	一人ひとりの思いや意向に応えられるよう言葉や表情などから思いをくみ取るようにしている。買い物に行った時や飲み物などを、利用者本人の意思を尊重して選んでもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族やサービス利用時の担当者から情報収集をし本人の生活歴や趣味、嗜好について職員間で申し送りノートにて共有しています。入所後は本人の生活や会話の中から情報を得て職員間で情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時に必ず申し送りノートを見て入所者の状態把握をしています。また、毎朝の朝礼でその日の入所者の様子を申し送っておりより細かい対応に努めています。各ユニットに1冊ずつと全体の申し送りノートを活用し職員全員が状況把握できるよう工夫しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとにどうしたらより良く暮らせるかを職員同士で話し合い問題点や課題があれば医師、看護師に相談しています。入所者1人に2人の担当職員がおり細かいモニタリングを行いケアプランの見直しや意見を取り入れて現状に即した介護計画を作成しています。	利用者が地域でその人らしく暮らせるよう必要な支援を盛り込んだ、個別の具体的な介護計画を作成している。身体状況に応じて、本人・家族に思いや意見を聞き計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子をサービス提供記録、生活記録票に細かく記録しています。各ユニットにある申し送りノートを使用し、問題や課題を記入することで職員間で情報の共有をし実践や結果を記しケアプランの見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週に1度マッサージの日を設けており資格のある職員が来訪し全員がマッサージを受けており楽しみの1つとなっております。塗り絵が好きな入所者には家族に協力してもらい塗り絵と色鉛筆を購入していただき作品として出品したいと意欲向上に繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や知人の面会の他に託児所の子供達の慰問、中高生の職場体験や見学学習も多くあり幅広い年代の方との交流があります。天気の良い日のお散歩、お花見ドライブや毎月スーパーでのお買い物に出かけることで地域の方々との交流を持ち豊かな暮らしを楽しめるよう支援しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と24時間体制の医療連携を結んでおり急な体調不良にも安心して受診できています。同法人内のクリニックには今年度歯科が開設され多くの入所者が治療に通っております。今年入所の方で肝臓の専門外来希望の場合も受診などの支援を行っております。不安なことがあれば主治医に相談し都度本人の希望に沿った治療を受けることが	法人内の病院から、月二回の往診をうけている。眼科等の専門科受診は、基本的には家族対応とし希望があれば、職員が同行して受診し、結果等は家族に伝え共有している。急変時には、法人内の病院に連絡して、指導や対応の指示を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が毎日入所者の様子を見に来て声掛けし職員が気になることを報告し連携がとれる様努めています。些細なことでも気になることを報告し受診しやすい環境であるため入所者も安心して過ごしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される場合殆どが法人内の病院であるため相談員、看護師共に連絡を取りやすい環境にあります。すぐ隣にあるため面会も行きやすく様子を見に行きながら相談員や看護師に現状を聞くことができます。医師の病状説明に同席させてもらい今後について相談するなど病院との関係作りを行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所者の急変や事故発生時に備えて緊急連絡網や緊急時の対応マニュアルを見える所に掲示しております。勉強会や看護師からの指導を受け職員全員が対応できるよう訓練しています。	終末期は利用者の多くが、法人内の病院利用を希望していて、最期の看取りは病院でしている。できるだけ、事業所で過ごせるように、医師や看護師から状態にあった介護の指導を受けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所者の急変や事故発生時に備えて緊急連絡網や緊急時の対応マニュアルを見える所に掲示しております。勉強会や看護師からの指導を受け職員全員が対応できるよう訓練しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年設置した防災無線で近隣の火災や地震などの災害情報がアナウンスされ災害対策への意識がより高くなりました。年に2回避難訓練を行い実際に入所者全員を外に避難誘導行っています。また定期的に消防署による消防設備点検を受けており地域の協力体制を築いています。	事業所内のカーテンを、防災仕様物にしている。緊急時の、職員の避難対応や備品持ち出し担当を、毎週の勤務表に表記し毎日確認し、いつでも的確に行動できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った声掛けや対応を行っていますが人格を尊重することを忘れないように職員間で話し合い、注意喚起しております。自分がされて嫌なことはしない、言わないなどプライバシーの確保と尊厳を持って接するよう対応しています。	職員は、利用者を、人生の先輩として敬い、常に感謝し、労いの声掛けをしている。排泄の確認や誘導は、近くに寄り添い、本人だけに聞こえるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で交わされる会話や様子から気持ちを汲み取り話し易い環境作りに努めています。出来ることを確認してから家事をお願いするなど強制ではなく自分で出来るか出来ないかを決めて頂くことで自己決定に繋げています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でおおまかな1日の流れはありますがその人のペースで過ごせるよう配慮しています。自由に居室とダイニング、ソファへ行き来していただき、都度声掛けし様子見しています。対応出来ることは出来る限り希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着たい服や髪形で過ごせるよう支援しています。自分で整容出来ない入所者にもお出かけや行事の日には季節に合ったお気に入りの洋服で参加できるよう支援しています。毎朝整髪し身だしなみを整えるよう声掛けしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人内の栄養科に依頼しております。施設に畑があり野菜をおやつにしたり味噌汁に入れて提供しています。毎食前に食前体操が日課となり体操と合唱を行っています。メニューを発表し食事を楽しみにされています。後片付けは入所者と職員で協力して行っています。	法人全体で調理し、運ばれた料理を事業所内で利用者の状態や嗜好を考慮して、盛り付けして配膳している。食材の形状や硬さを考えて盛り、各自ができるだけ全部食べられるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養科の管理栄養士の献立で健康かつバランスのとれたメニューとなっています。食事形態や嗜好を一覧表にし、食札にて間違っ配膳しない様注意しています。一日の摂取量を記録し本人の状態把握に役立てています。介助の必要な方や摂取量の少ない方など一人ひとりに合った支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全員が口腔ケアを行っています。自分で出来る方には声掛けし、介助が必要な方には職員が洗面所まで誘導し行っています。嚥下機能が低下している方は消毒をしみこませたガーゼで口腔内を拭きとるなどの個別支援をしています。毎晩義歯は消毒液に浸け清潔な口腔内を保持できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握できるよう時間、量を一覧表にしています。定時での声掛けと誘導を行ってできるだけトイレで排泄していただけるよう努めています。介助の必要な方、自分で訴えられない方にも職員がサインを読み取り排泄介助を行っています。	自由にトイレに行くことができる自立排泄の利用者には、さりげなく見守り排泄状況を確認し記録している。自立のむけて可能な限りトイレで排泄できるよう、適切な個別誘導し、リハビリパンツから布パンツに替えることもできた利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として毎日のリハビリ体操と水分補給を行っています。水分補給に乳酸菌飲料、飲むヨーグルト、野菜ジュースを取り入れ自然排便となるよう工夫しています。便秘が解消されない時は看護師に相談し下剤や浣腸で対応しています。便秘に敏感な入所者もあり、下剤を希望された場合には都度対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴を行っておりますが本人の希望や体調により曜日や回数を変えて柔軟に対応しています。入浴拒否があった場合は無理強いせず次回に入浴していただく、清拭や着換えで対応する等本人の気持ちを第一に考えて対応しています。入浴剤や本人のお気に入りのシャンプーを使用して頂きリラックスして入浴をしていただいている。	利用者のその日の希望に合わせて、くつろいで楽しく入浴できるよう支援している。着脱した衣類が自分の身近にないと不安になる方には、居室に洗濯物を干すなどして安心してもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は家事や運動など適度に動いて頂くことで夜の快眠に繋がっています。本人のその日の体調や気分により自由に居室やソファで休んでいただいております。寝具類はこまめに洗濯し、布団干しも一覧表にして常に清潔で気持ち良く眠れる様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をファイリングして職員がすぐに目の通すことができる場所に保管しており一人ひとりの服薬情報の理解に努めています。薬の変更があった場合には申し送りノートで情報の共有をし経過観察を記録することで状態把握に役立てています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴に沿って出来る仕事や家事をお願いしています。食器洗い、食器拭き、洗濯物畳みなどをすることで役割があり張り合いのある暮らしへと繋がっています。毎月の行事やお散歩などの楽しみごとをより楽しめるよう職員が意見を出し合っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそい「外の空気を吸いたい」「散歩したい」との声聞かれた場合は職員同行し散歩に出かけています。月に1度希望する入所者とスーパーへ買い物に出掛け、地域の方々と触れ合っています。家族の協力もあり外食に出かける入所者もいます。	職員は外出先を下見に行き、トイレ・安全歩行・車いす対応などを確認し、安全で安心して出かけられるようにしている。法人のバスで千本楼を見に行くなど、楽しいバス旅行を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の持ち込みは行っておらず必要なものや欲しいものがあれば家族に連絡し持参していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族や体調不良でなかなか来訪できない家族との電話での会話を楽しみにしている入所者もたくさんいます。家族の要望を聞きながら職員見守りのもとで会話を楽しんでいます。手紙のやり取りはしていませんが日記をつけている入所者もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔にし整理整頓して無駄なものを置かないようにし快適な空間となるよう心がけています。季節の花を飾り入所者手作りのカレンダーを飾るなどして季節感を取り入れています。ソファ、テーブル、テレビを設置しゆったりと自由に過ごしていただいております。	利用者が居心地良く過ごせるよう、温度計・加湿器・空気清浄器を設置し、空調管理している。職員は毎朝、消毒液で身の回りの拭き掃除をしたり、面会の方にはマスクの使用・手の消毒をしてもらうなど感染症予防対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは大き目のものでゆったりと座りながら気の合う方と会話が弾まれる様子見られています。ダイニングや隣のユニットに自由に行き来して入所者同士話されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室は本人がご家庭で使用されていた馴染みの家具や人形を安全に配置し居心地良く過ごせるよう配慮しています。今の季節に合った寝具やカーペットで過ごせるよう家族に連絡をして職員と共に整理を行い環境を整えています。	利用者の希望でベッドの位置や高さを変えたり、上り下りが安全にできるようベッドの下に布団を置くなど、その人に合わせた居室づくりをしている。利用者と担当職員と一緒に掃除や衣替えなどし、整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がわかるよう部屋に表札を作成し飾りを付けるなどして解りやすくしています。居室の電気の紐を長くして自分で消す、トイレには大きく「便所」と掲示するなど「できること」「わかること」を活かし自立した生活が送れる様支援しています。		